令和２年度病床配分希望に関する協議状況一覧（１／３）

資料４－４

	区南部	区西南部
各分科会での協議内容	【品川区分科会】 ・２法人からの申請のうち、１法人（東京品川病院）から説明を実施。 ・地域に不足する災害医療・感染症医療や増床の必要性は認められるという点で概ね意見がまとまったが、病院の人材確保や役割について懸念する意見も出された。 （主な意見等） ・災害医療・感染症医療を提供いただけるのは、地域としてありがたい話。 ・区の東部には急性期病床が相対的に不足しているので、増床の根拠は認められる。 ・地域医療支援病院に申請予定とのことだが、地域に増えると非常に心強い。 ・100床余りの増床に対して、マンパワー（医師・看護師・薬剤師）と医療の質をどのように確保していくのか、また確保できるのか。 ・一気に病床が増えると、周囲の医療機関の収支に影響を及ぼす恐れがあるので、役割分担を明確にしていただきたい　等 ※その他の１法人（松脇クリニック）については、別途品川区医師会と申請者とで調整を行った。	【目黒区分科会】 ・東邦大学医療センター大橋病院の病床配分申請（１床）について協議を実施。 ・１床増床のみのため他への影響はないと判断した（当該病院は改築時に減床している） 【世田谷区分科会】 ・病床配分申請のあった３医療機関（児玉経堂病院、成城リハケア病院、関東中央病院）について協議を実施。 （主な意見） 〇児玉経堂病院について ・地域として療養病床は不足傾向にあるため、妥当。 〇成城リハケア病院について ・概ね妥当 ・実績を鑑みると、４床の増床であれば可能と考える。 ・在宅医療を提供しており、回復期リハに近いリハからの受け皿としての病床と考えられ、増床は良い。 ・法人の戦略的増床・目的・業務内容は確認したい。 〇関東中央病院について ・概ね妥当 ・災害時の病床自体は必要ではあるが、それ以外は回復期病床は少なく精神科病床との位置づけ。 ・30床の増床は、病院の体質を考えると十分妥当と考えられるが、精神科病床はコロナ収束で災害時に転用予定とされている。精神科病床に今回の30床の増床は、現状の７割台の稼働率を更に押し下げると思われ、懸念材料ではある。精神科と一般病床は意味合いが異なるため、精神科を廃止してなら良いのでは。 ・また、30床は１フロア程のスペースを必要とし、平時の使用用途は、一般・回復も含めてどう運用するのか。その分の人材資源も含めて増案を持っていれば確認したい。 【渋谷区分科会】 ・病床配分申請のあった初台リハビリテーション病院の申請内容について協議を実施。 ・総合的に妥当との意見でまとまった。
調整会議での質疑	〇東京品川病院について ・災害医療、感染症医療に対応することには異議はなかったが、平時の際はどのような機能の病院になるのか。また、前身の東芝病院では在宅患者のバックベッドとして緩和ケア病棟があったが、今後整備する予定はあるか。 →産科病棟、緩和ケア病棟とＥＲの強化を考えいる。 ・有事の際に、その病床を開ける必要が出てきた時はどのように患者対応を行うのか。 →法人内の関連病院に転院してもらう予定。 ・職員の採用については、周辺病院へ配慮をお願いしたい。 ・グループ内の関連病院との連携だけでなく、地域の医療機関との連携もお願いしたい。 ・災害拠点病院及び地域医療支援病院に今後、申請されるとのことなので、期待したい。	〇関東中央病院について ・平時の際の病床の運用方法はどのように考えているか。 →急性期病院の機能強化として活用する。 〇成城リハケア病院について ・増床にあわせて、地域包括ケア病棟から回復期リハビリテーション病棟に転換するとのことだが、区西南部では在宅患者の増加が見込まれているので、回復期リハに特化するのではなくて、地域の在宅患者のリハビリのサポートという意味で、地域包括ケア病棟を残すことも是非検討してほしい。 →持ち帰り、院内で検討していきたい。
協議結果	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。

令和２年度病床配分希望に関する協議状況一覧（２／３）

	区西北部	区東北部
各分科会での協議内容	【北区分科会】 ・区内の3病院米倉脊椎・関節センター病院、東京北医療センター、赤羽中央病院附属クリニック）からの病床配分申請について、総合的に妥当との意見でまとまった。 （主な意見） ・3病院には、地域医療連携、地域保健活動、災害医療等への積極的な協力を望みたい。 〇米倉脊椎・関節センター病院について ・整形外科の救急患者の受入れについて協力を要請する。 【練馬区分科会】 ・区内の3病院（練馬志匠会病院、忠医会病院、慈誠会・光が丘病院）からの病床配分申請について協議を実施。反対意見はなかった。 （主な意見） 〇練馬志匠会病院について ・区内医療機関と病病・病診連携を図り、練馬区医療の要望である積極的な救急医療に何らかの形で応え、また近隣医療機関と良好な医療連携を保つことができるのであれば、特色ある急性期医療を提案されているため、今後の開設が期待される。 〇忠医会病院について ・障がい者医療、救急医療を提供するにあたり、企画提案段階では小児科がなく、また医師数が３名とかなり少ない。既に病院運営をされている足立区と練馬区との地域性の違いを理解いただき、医師会・行政と連携のうえ取り組んでいただきたい。 〇慈誠会・光が丘病院について ・法人内の連携に偏ることなく、地域の主治医と緊密な協力体制をとることが必須。また、かかりつけ医による訪問診療がスムーズに開始あるいは再開できるように、地域包括ケア病棟の運営が行われることが大切。	【荒川区分科会】 ・区内の3病院（メドビュー荒千病院、木村病院、令和荒川病院）からの病床配分申請について意見交換を実施。申請内容は、3病院とも妥当との意見でまとまった。 （主な意見） ・回復期リハビリテーション病床の申請が出ており、区外に出るしかなかった患者からしたら歓迎すべきことと思われる。 ・区内には回復期が不足しているとされる一方で、急性期も足りないという意見もある。適正な回復期の病床数を明確にすることはなかなか難しいが、今後も検討を進めていく必要がある。 ・災害拠点病院が区内に一つもなくなることは大きな課題 ・荒川区分科会として、他区に優先して病床配分をするよう東京都へ求めていく必要がある。 〇メドビュー荒千病院について ・既に新設認可を受けている51床が未稼働とのことだが、今回の計画について地域住民の反応はどうだったか。 →予定地の周囲に病院がないことが課題となっており、地域住民の賛同は得られているとの回答 【足立区分科会】 ・区内9医療機関（福寿会足立東部病院、福寿会病院、舎人公園病院、苑田第一病院、花はたリハビリテーション病院、竹の塚脳神経リハビリテーション病院、あだち共生病院、桜会病院、環七脊椎外科病院）から、現状及び病床配分申請に関する経緯説明を実施。特に意見等はなかった。 【葛飾区分科会】 ・区内3病院（イムスリハビリテーション医療センター東京葛飾病院、イムス東京葛飾総合病院、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター）からの病床配分申請内容について協議を実施。区内の医療ニーズに沿った申請であるとして、いずれも申請内容は妥当との意見でまとまった。 （主な意見） ・現状、区内では災害時の熱傷対応ができない。熱傷対応ができるような病床についても将来的には必要
調整会議での質疑	〇米倉脊椎・関節センター病院について ・整形外科の救急患者の受入れについて協力をお願いしたい →まだ東京都指定二次救急医療機関の指定を受けておらず、救急の指定を受けるためには、ソフト・ハード両面での更なる整備が必要。 〇赤羽中央総合病院附属クリニックについて ・当直医がいないとのことだが、夜間はどうなるのか。 →隣接している母体の赤羽中央総合病院の当直医が対応する。 〇練馬志匠会病院について ・分科会で出た「積極的な救急医療に何らかの形で応えていただきたい」という点についてはどのように検討されたか。 →脊椎疾患であれば外傷でも対応を行っていきたい。 〇忠医会病院について ・医師数が3名と少ない点についてどう考えているか。 →医師3名とは現時点での内定者数であり、法定を越える常勤9名で計画している。 ・障害者医療という特色ある病院だが、近隣の区からも受け入れていただけると考えてよいか。 →設備や能力に限りはあるが、医療連携として、積極的に協力していきたいと考えている。	・荒川区においては、災害拠点病院の整備が急務である。また、本医療圏は区部の他の医療圏と比べて、人口における65歳以上の構成割合が高く、人口も増加することが見込まれているため、将来的な医療需要の高まりに対応していく必要がある。そのため、基準病床数にとらわれない、柔軟かつ重点的な配分を検討いただきたい。 ・本圏域は、感染症指定医療機関が１つもなく、今般の新型コロナへの対応においても、大変厳しい状況に置かれている。また、葛飾区は、特に３本の河川に挟まれていることから、災害医療の整備も重要な課題として認識している。これまでのような均等配分ではなく、是非とも、メリハリをつけて配分を行っていただきたい。 ・水害を始めとする災害への対応が喫緊の課題であるとともに、現状においては、コロナ対応等により、地域の中核病院フル稼働で、全く余裕がない状況である。均等配分による配分により、申請病床数より、配分される病床数が減らされてしまうと、災害医療救護計画に沿った対応が困難となる。 ・歯科医療の観点からも、地域の患者の高齢化が進展していることを実感しており、配分について配慮を望みたい。
協議結果	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。ただし、申請のあった病床数について、最大限の配付を求める意見が複数出された。

令和２年度病床配分希望に関する協議状況一覧（３／３）

	区東部	南多摩	北多摩西部	北多摩北部
各分科会での協議内容	【墨田区分科会】 ・湘南メディカル記念病院の増床に伴う病床配分について、協議を実施。 ・申請内容について、分科会出席者からは異議はなく承認された。 【江東区分科会】 ・あそか病院からの増床申請について、協議を実施。 ・地域に必要な病床であると考えられるため、申請内容について問題ないと判断した。 【江戸川区分科会】 ・区内の3病院（松江病院、東京さくら病院、タムス瑞江病院）からの申請内容について協議を実施 （主な意見） 〇松江病院について ・医療機能、病床数等、総合的に妥当との意見でまとまった。 〇東京さくら病院について ・医療機能については判断できるまで議論が至らず、病床数は妥当でない、申請内容は調整が必要との意見が多数であった。 〇タムス瑞江病院について ・医療機能、病床数、申請内容等について妥当でない、又は調整が必要との意見が多数であった。	【八王子市分科会】 ・2法人（新上川病院、清智会記念病院）の増床配分申請について、書面にて開催 ・分科会構成員からは申請内容についての意見は無かった。	【昭島市分科会】 ・2法人（あきしま相互病院、東京西徳洲会病院）の申請内容について、昭島市から説明。協議した結果、病床の増床については、基本的には問題なし。 （主な意見） 〇東京西徳洲会病院について ・感染症対応の病床整備を申請しているが、当該病院は32名のコロナ陽性患者が発生していることを勘案すると、現状のままでは、感染症に対応する病床を運営するためには課題が多いのではないか、という意見も出された。	【西東京市分科会】 ・１法人（武蔵野徳洲会病院）の病床配分申請について、協議を実施。災害対応等は、地域で必要な医療機能であると考えるため、申請内容については問題ないと判断した。 【東久留米市分科会】 ・１法人（滝山病院）の病床配分申請について、電話等により事前協議を実施し、後日文書にて同意を確認 ・市内には病院、病床が少なく、申請内容は地域に必要な医療機能と考えるため、問題ないと判断した。
調整会議での質疑	〇湘南メディカル記念病院について ・地域に必要な病床と考える。 〇あそか病院について ・地域に必要な病床と考える。 〇松江病院について ・申請内容については、総合的に妥当である。 〇タムス瑞江病院について ・申請は回復期病床だが、感染症30床は急性期病床なのではないか。 　→コロナ軽快後の患者に対応する回復期の病床である。 ・平時の際はどのような機能を担うのか。 →地域包括ケア病床の機能を担う 〇江戸川区として病床整備の考え方は。 →区として必要な病床整備がされることを希望する。 〇地域医療構想の趣旨に鑑みると、病床配分の申請は、医療機能（回復期・慢性期病床）を限定すべき	・申請内容に関して、特段の意見等はなかった。	〇東京西徳洲会病院について ・災害医療と感染症医療の両立は非常に難しい。地域で連携して取り組んでいく必要がある。 ・災害医療や感染症医療は危機管理的な側面が強い。医師会や行政と連携して取り組んでいただきたい。	〇武蔵野徳洲会病院について ・行政の視点から申請内容についてどう考えるか。 →地域医療の面からも、地域防災の面からも必要と考える。 ・平時の運用方法はどう考えているか。 →三次救急の医療機関である程度回復された患者を引き取り、後方支援の役割を担っていくことを目指している。 〇滝山病院について ・医療機関が少ない地域であるため増床は有難い。 ・行政としても、総合防災訓練等に協力してもらっており、防災面での機能強化であるため有難い。
協議結果	一部の病院（東京さくら病院及びタムス瑞江病院）の申請内容について、引き続き、調整が必要との意見が出された。それ以外の医療機関の申請内容については、了承された。 （後日、申請者と地区医師会、行政の関係者間で再度、意見交換を実施予定）	各医療機関の申請内容は、了承された。	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。	各医療機関の申請内容については、質疑応答を行い、了承された。